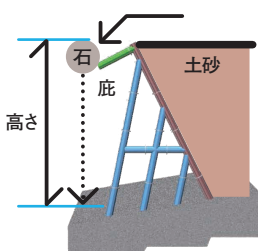


より高く、より安全に!

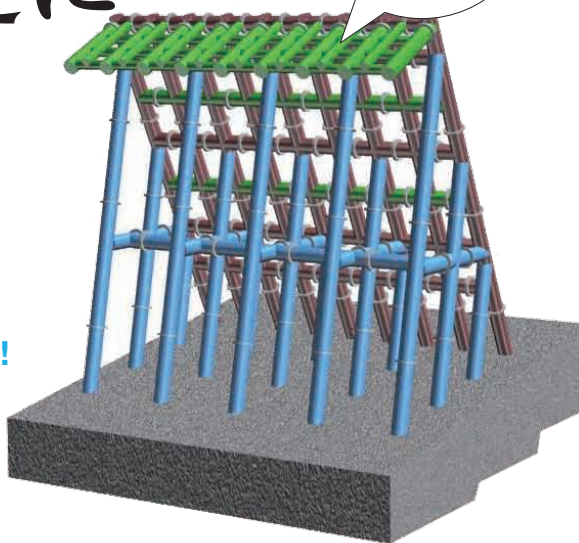
# J-スリットえん堤に 8.5mを超える 新タイプ誕生!

この<sup>ひまし</sup>底が  
ポイント!



## 高さ8.5mを超える J-スリットえん堤に底を設置!

土石流捕捉後に、えん堤を越えて落下する石が柱に衝突しないように底を設置しました。これまでのJ-スリットえん堤の土石流捕捉機能、部材の安全性を継承しながら、えん堤全体の安全性を高めた構造となっています。



## J-スリットえん堤に底がつくまで

2003年4月

会社合併当時、2つの  
スリットえん堤が存在



これらをひとつの製品に統一し、より合理的な断面形状とすることを目的に、新たな鋼製透過型砂防えん堤の開発をスタート

2006年2月

J-スリット  
えん堤誕生!



今までにない新しいタイプのえん堤であることより、高さは8.5m以下が適用範囲

2007年3月

「砂防基本計画  
策定指針(土石流・流木対策編)」  
改定

透過型砂防えん堤が、土石流・流木対策の基本であると位置づけられるさらに高まってくると予想される行政ニーズに対応すべく高さ8.5mを超えるJ-スリットえん堤の開発に着手!

2008年7月



J-スリットえん堤の高い安全性や土石流捕捉効果が実証された。

富山県で  
J-スリット  
えん堤が  
土石流を捕捉

2010年3月

建設技術審査証明書  
取得

8.5mを超えるJ-スリットえん堤の建設技術審査証明書を新たに取得  
底をつけることで、安全面での課題をクリア!

## 底のアイデア 誕生秘話

落下する石が柱に衝突しても安全な構造については、さまざまな議論がありました。実現可能な案が出ず、一同途方にくれていたある時、担当者の1人が、帰宅途中雨に降られ、あわてて近くの建物に雨宿りをしました。一息ついて、ふと上を見るとそこには底があったのです。「そもそも柱に石が当たらなければいいんだ!」。底のアイデアが浮かんだ瞬間でした。

近年、地球温暖化の影響からゲリラ豪雨が多発し、今まで土砂災害が起る可能性が低かった場所でも発生危険性が高まっています。最近の土石流災害発生件数は、じつに約150件/年には、水と土砂が混ざって流れてくる土石流ですが、特徴は先頭部に大きな石が集まって流れてくることです。これらが家屋を破

壊し、甚大な被害を及ぼします。J-スリットえん堤は、この大きな石を確実に捕捉し、水だけを流す仕組みになっています。06年2月に販売を開始し、09年12月までに79基が設置され、08年7月には富山県で土石流を捕捉し、高い効果が実証されています。

越流して落下する石の衝突に対する安全性を考慮して高さは8.5m以下が適用範囲となっていました。今回、「高さ8.5mを超えるタイプ」については、越流して落下する石が柱に衝突しないように底を設置。建設技術審査証明書を取得しました。これからも、国土保全に微力ながらも貢献できるよう、防災商品の開発・改良を進めてまいります!

お問い合わせやご質問など、お気軽にご連絡ください。

防災商品販売チーム ● 03-5644-5409 / 土木技術部 防災技術室 ● 03-5644-1221